

まごころ病院医療連携室だより

まごころ病院副院長 八鍬 誠

県立胆沢病院の昨年4月の連携だよりに勝又院長先生が「当医療圏における資源の有機的なネットワーク作り」を目標の一つにし、「選択と集中、そして連携を進める」と延べられていました。



まごころ病院の役割は、胆沢地区を中心とした一般診療や健康管理、疾病予防であります。在宅診療はそれに付随するもので、何十年も前から行っていました。胆沢地区での通院困難・難病・老衰などの方が対象で、ご家族様とは長い付き合いになります。

最近では、末期ガンと診断された方や通院困難な水沢地区の方の訪問が格段に増えました。予後わずかで自宅で最期を・・・という紹介では初診で死亡確認となったり、頻回の往診が必要で難渋する方もおられます。

また高齢者施設がどんどん増えており、そこからも訪問診療の件数が増えました。状態の安定していない方も結構おられます。

さて、奥州市の財政はとても厳しく、市立病院・診療所の統廃合を検討した時期もありましたが、現時点では5つの市立医療施設は維持し、そのうえで民間医療施設及び県立病院と機能分化を図りつつ、迅速かつ適切に医療を行える地域医療ネットワークを構築するという取り組みが始まっています。

当まごころ病院の及川院長は、「当院の存在意義のため、県立胆沢病院が救急を断らないのと同様に、転院や在宅の依頼を断ってはいけません。」と口を酸っぱく職員に説いていました。でも近いうちに「選択」が必要

になるでしょう。

衣川や前沢診療所には以前、診療応援に行っていました。それぞれに地域での役割があります。総合水沢病院とはスタッフの交流がここ数年盛んです。

これからの新病院がネットワークの大きな歯車になるよう願っています。

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

11月28日現在の新規感染者数は30,181人、累計で151,007人です。

死亡者数は59人増えて累計で263人です。

岩手県内でも、8月に第7波のピークが来て以来、9月から10月上旬まで減少傾向でしたが、10月中旬から徐々に増加が始まり、11月25日には、過去最高の2,241人/日を記録するなど、県内で最も感染が拡大した8月に迫る状況です。

年度	2年度計	3年度計	4年度									
月	2年度	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11/28現在	合計	
件数	621	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17465	12222	30181	151007	
死者数	30	47	8	6	5	13	54	30	11	59	263	

年代別感染者数（第5～第8波比較）

第5波 R3.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	67	147	228	170	168	110	61	32	14	5	0	1002
比率	7%	15%	23%	17%	17%	11%	6%	3%	1%	0%	0	100%
第6波 R4.4月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	2013	1708	1146	1548	1351	707	428	207	166	79	0	9353
比率	22%	18%	12%	17%	14%	8%	5%	2%	2%	1%	0	100%
第7波 R4.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	5511	4285	4946	5640	5456	3918	3002	1886	1258	622	0	36524
比率%	15%	12%	14%	15%	15%	11%	8%	5%	3%	2%	0%	100%
第8波 R4.11.28	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
	4413	5625	2983	4377	4834	2766	2038	1305	1131	707	2	30181
比率	15%	19%	10%	15%	16%	9%	7%	4%	4%	2%	0%	100%

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和4年11月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州市HP「奥州市 Web 博物館」を開いていて、「奥州市の先人」コーナーを見つけました。

安倍貞任、藤原清衡、無底良韶、後藤寿庵、千田左馬・遠藤大学、高野長英・留守伊豫子、箕作省吾、武下節山、菅原竹侶、片桐清治、後藤新平、山崎為徳、高橋豊明、斎藤實、吉川鉄之助、栗野善知、斎藤斐章、太田幸五郎、木村栄、小澤懐徳、郷古潔、小野寺直助、佐々木精治郎、五味清吉、森口多里、及川豪鳳、伊藤まつを、及川栄、菅原新一、遠藤梧逸、佐伯郁郎、及川裸観、佐々木辰治郎、織田秀雄、菊田一夫、小牧正英、高橋萬右衛門、菊地規、三好京三さん まで42人です。

SYOHEI ニュースでも、奥州市ゆかりの先人を紹介します。第一回目は、上記朱書きの三人です。

名前 誕生西暦 ゆかりの地	事績
あべのさだとう 安倍貞任 940 年 衣川 	<u>「地方の時代」を実現した</u>：貞任の身長は六尺（約 180cm）を越え、大きく色白の体であったという。平安時代末期の武将で奥六郡（伊沢・江刺・和賀・稗抜・志和・岩手）を治める豪族、安倍頼時の子。治水工事を行うなど地域住民の信頼も厚かった。 しかし頼時が朝廷と対立し前九年合戦と呼ばれる戦いを繰り広げる。 貞任の活躍によって安倍氏有利と思われたが、源頼義が出羽の清原氏の力を借りて反撃し衣川柵を陥落させたため安倍氏は滅びた。平泉三代・藤原清衡の叔父。 SYOHEI ニュース 8 月号で紹介した「一首坂」の武将の一人です。
ふじわらのきよひら 藤原清衡 1056 年 江刺 	<u>「平和を願った奥州藤原氏の祖」</u>：奥州平泉藤原氏の初代。平泉に大きな政治文化都市を建設し、中尊寺や「金色堂」を建てるなど、仏教の浄土思想を取り入れて、人々の平和と国家の安泰を図った人である。陸奥国亘理郡の豪族の藤原経清の子として生まれた。母は地元元の豪族安倍氏の出身であった。前九年の役や後三年の役で肉親との悲慘な別れを経験する。初めの頃は本拠地を江刺郡豊田館（SYOHEI ニュース 9 月号で紹介）としていたが 1094 年頃には平泉に移り中心都市の建設を開始した。仏教に従って中尊寺を中心とする街づくりを推進し、この時代の日本には例をみない壮大な都市が出現し、都と異なった特色を持つ奥州藤原四代の祖。
むていりょうしょう 無底良韶 1312 年 水沢 	<u>「奥州曹洞宗本山・正法寺の開基」</u>：無底良韶は、南北朝時代の 1348 年に水沢黒石町にある正法寺を開いた人です。東北地方では初めての曹洞宗寺院でした。1350 年には日本曹洞宗第三の本寺の格式を得て、奥州の出世道場となりました。無底は能登国の藤原氏の出で、22 歳のとき我山紹碩から伝法を受け、日本曹洞宗の開祖道元禅師が中国から持ち帰った袈裟を授けられている。 無底は 34 歳のときに奥州黒石に下り、1348 年に正法寺を開いた。現在、無底の残した正法寺は本山としての格は失ったが、今でも東北地方で曹洞宗を信仰する人々の心のより所となっている。